



TITLE:

# 京都市都心部の細街路沿いのまちなみの維持・継承に関する研究( Abstract\_要旨 )

AUTHOR(S):

森重, 幸子

---

CITATION:

森重, 幸子. 京都市都心部の細街路沿いのまちなみの維持・継承に関する研究. 京都大学, 2017, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2017-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.r13094>

RIGHT:

( 続紙 1 )

京都大学	博士 ( 工 学 )	氏名	森重 幸子
論文題目	京都市都心部の細街路沿いのまちなみの維持・継承に関する研究		
<p>( 論文内容の要旨 )</p> <p>本論文は、京都市都心部に多数存在する細街路に着目し、細街路の実態および細街路沿いのまちづくり活動に関する調査を行い、細街路沿いのまちなみの維持・継承のための方策について考察した結果をまとめたものであり、5章からなっている。</p> <p>第1章は序論であり、研究の背景・目的・方法と論文の構成、研究の位置付け、および用語の定義について述べている。研究の背景として、京都市および他都市における細街路に関する施策の流れを整理し、細街路沿いのまちなみの保全という視点は近年新たに政策目標として付加されたこと、しかし施策としての実践例は限られており知見が不足していることを述べている。また既往の言説から都市における細街路の多面的価値について整理を行い、細街路は都市に魅力を与える重要な空間であることを示している。その上で、京都市都心部の細街路沿いのまちなみの維持・継承のための方策についての知見を得ることを目的として設定し、具体的な研究課題2点について延べている。</p> <p>第2章は研究課題1に該当し、まちなみの維持・継承についての対策を積極的に行うべき細街路についての知見を得るため、京都における歴史的景観の拠り所となる町家に着目し、細街路の分布と町家の分布の関係性の分析を行っている。分析は、京都市都心部に該当する4つの区を対象とする分析と、そのうち特定の2つの地区を取り出した詳細な分析の2段階に分けて行っている。その結果、細街路と町家の分布には相関があり、細街路が多い地区、特に袋路が多い地区に町家も多く存在しており、細街路は町家とともに歴史的市街地の特徴的な存在であることを確認している。特定の地区における分析からは、市中心部の繁華な地区では細街路沿いに町家が多く存在している状況を明らかにするとともに、袋路では町家が多くあるものと無いものの両極端に分かれる傾向があること、それに対して通り抜けでは町家の偏りは少ないことを示している。</p> <p>第3章は研究課題2-①に該当し、細街路沿いのまちなみの維持・継承における課題を把握することを目的に、実際のまちづくり事例の調査を行いそこでの成果と課題を明らかにしている。具体的には、京都市中心部に位置し、伝統的な意匠をよく残した町家の立ち並びが見られる細街路沿いの町のまちづくり活動を対象とし、長期間にわたる参与観察調査を行うとともに、対象地の建築物の変化や、土地・建物の利用の変化なども含めた多面的な分析と考察を行っている。その結果、細街路沿いのまちなみの維持・継承における対象事例の成果と課題として以下の点を明らかにしている。対象地では10階建のホテル建設計画を契機にまちなみの変化への危機感からまちづくり活動が開始され、普段の生活やまちなみに対する基本的な考え方を明文化した文書を作成するとともに、建築の付属物や道の舗装、道上の物などのまちなみを構成する要素の修景に具体</p>			

京都大学	博士（工学）	氏名	森重 幸子
<p>的な成果を上げた。一方で建築物の形態についての拘束力あるルールづくりに向けた合意形成には至らず、その背景には合意形成を阻害する複合的な要因が存在していることが課題であることを示している。また現状の規制に関する課題として、特に細街路に面する建築物の外壁の位置、および建築物の規模に関する規制に問題があることを指摘している。</p> <p>第4章は、第3章で明らかにした課題のうち特に細街路に面して模の大きな建築物が立つという現状の規制に関する課題に着目し、その実態を明らかにするために、京都市中心部において敷地が細街路に面するように立つ高層建築物の事例の調査および分析を行っており、研究課題2-②に該当する。京都市中心部の幹線道路沿いの地区を対象とし、該当する高層建築物の事例を悉皆調査し、細街路の形態や、高層建築物の敷地と細街路沿いの敷地との関係性から全てのパターンについて整理を行っている。その結果、細街路とは別に一般の道路への接道をもつ事例が多いこと、パターンとしては通り抜け細街路の入り口に当たる始端部敷地に高層建築物が立つ事例が最も多く、続いて通り抜け細街路の途中に位置するもの、袋路の通路の隣に位置するものが多くなっていることを明らかにしており、その中でも通り抜け細街路の途中に高層建築物の敷地が位置するものが細街路沿いのまちなみへの影響が特に大きいことを指摘している。</p> <p>第5章は結論であり、各章で得られた知見をまとめた上で、町家との関係からみた細街路に関する知見、細街路沿いのまちなみの維持・継承の取り組みの成果と課題、細街路沿いの建築物の形態に関する現状の規制に関する課題、および合意形成に関する制度設計上の課題に分けて本論文の成果を整理し、結論としている。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、京都市都心部に多数存在する細街路に着目し、細街路の実態および細街路沿いのまちづくり活動に関する調査を行い、細街路沿いのまちなみの維持・継承のための方策について主として行政による施策という観点から考察した結果をまとめたものであり、得られた主な成果は次のとおりである。

1. 細街路と町家の分布の関係性の分析から、細街路が多い地区、特に袋路が多い地区に町家も多いことを示した。個別の細街路に着目した分析では、袋路では町家が多く存在するものと全く無いものの両極端に分かれる傾向があったのに対して、通り抜けでは町家の偏りは見られなかった。このことから、袋路には個別的なアプローチが有効であること、現状で町家が多く残る通り抜けは貴重な存在であり優先的に施策の対象と位置づけるべきであることを明らかにしている。
2. 細街路沿いのまちづくり活動の事例調査から、まちづくり活動は建築物の付属物や道の舗装などに一定の成果を上げており、普段からのまちづくり活動を支援することは有効な対策の1つであることを示した。一方で、建築物に関する拘束力のあるルールづくりの段階には至らず、その背景には、制度の理解の難しさ、担い手の不足、多様な価値観の存在といった、都心部の細街路沿いの合意形成を阻害する複合的な要因があることを明らかにしている。
3. 高度利用が想定されている市中心部では細街路沿いであっても高層建築物の建築が可能であり、京都市中心部の幹線道路沿い地区を対象とした調査によって、細街路に面して高層建築物が立つ事例について細街路との関係性から実態を明らかにした。特に、通り抜けられる細街路の途中に高層建築物が立つ例が比較的多く見られ、細街路沿いのまちなみへの影響が大きいことを明らかにしている。その上で、細街路沿いのまちなみの維持・継承には細街路側からの形態規制の導入が必要であることを指摘している。

本論文は、京都市都心部に数多く存在する細街路に関する詳細な調査にもとづき細街路沿いのまちなみの維持・継承のための方策について具体的な知見を示しており、近年ますます重要性を増している既成市街地の再生という観点からも意義のあるものであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成29年2月9日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。